

+

令和8年度 運営に関する計画



大阪市立梅南中学校
令和8年4月

目 次

1. 令和8年度 学校経営計画

1. 学校経営計画 P. 2

2. 様式1 中期目標と年度目標

1. 学校運営の中期目標 P. 3
2. 中期目標の達成に向けた年度目標 P. 5

3. 様式2 年度目標の達成に向けた取組内容

- 【安心・安全な教育の推進】 P. 6

1. 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現
2. 基本的な方向2 豊かな心の育成

- 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 P. 9

3. 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上
4. 基本的な方向5 健やかな体の育成

- 【学びを支える教育環境の充実】 P. 11

5. 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
6. 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
7. 基本的な方向8 生涯学習の支援

4. 別紙 各教科による年度目標に向けた取組内容

P. 13

大阪市立梅南中学校運営方針

校訓 自主 協力

キャッチフレーズ

「よい生活習慣」と「よい学習習慣」をつけよう

めざす学校像 [中期的な学校経営ビジョン]

根っこのある生徒に育てる学校

～地域・母校に誇りと愛着をもちながら成長する人を育てます～

※「根っこ」＝自分の生まれ育った地域や母校を愛し、誇りをもつことで、自分が自分であることを肯定的に認識し、自分を一個の人格として確立させること。

めざす生徒像

- ・自主的に考え行動できる生徒
- ・自他を思いやることができる生徒
- ・礼儀正しく素直な生徒
- ・夢や目標に向かってひたむきに努力する生徒

今年度の重点目標

「令和8年度『学校運営の指針』等について」（令和8年3月12日付教委校（中）第152号）の「令和8年度『学校運営の指針』」で示された「3つの『最重要目標』」は、

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

である。そこで、今年度の梅南中学校の重点目標を

「学力向上」と「不登校の克服」と設定した。

以下に4つの項目を挙げると、

- ①基本的な生活習慣を確立させ、健康な身体と健全な情操を育み、安心して安全な学校づくりをめざす。
- ②主体的・対話的で深い学びを通じた、思考力・判断力・表現力の資質育成に基づいた学力・体力の向上を図る。
- ③生徒が様々な行事・委員会活動・部活動に取り組むこと、および、教職員が生徒の望ましい行動を育て支援することにより、自主的・積極的な態度を育み、自己肯定感、自尊感情を高揚させる。
- ④小中連携と地域連携を通じて、「地域の学校としての認知度」を向上させるとともに、生徒・教職員に「地域の学校としての自覚」を向上させる。
また、認知度の向上により、学校選択制で「選択される学校」を目指す。

大阪市立梅南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度～令和7年度の4年間の現状をふまえ、本校の重点目標である、生徒の「**学力・体力の向上**」と「**不登校の克服**」に全力で取り組んでいきたい。「よい習慣をつける」をキーワードとして、安全・安心をベースに、心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための様々な力を身に付けさせたい。小規模および1小1中である強みを生かしつつ、保護者、地域、校区小学校、その他関係諸機関等の連携を強化し、安全で安心できる教育のコミュニティづくりに取り組むとともに、義務教育修了までに社会で生き抜くために必要となる基礎的な知識や力の習得を徹底してめざしたい。生徒に「よい生活習慣」と「よい学習習慣」を身に付けさせ、国際化の進展や災害の発生等に立ち向かう「生き抜く力」を備え、未来を切り拓く心豊かな生徒を育みたい。

生活指導面では、数年前までの大きな「荒れ」の状況から脱却できている。対生徒間や対教師における暴力行為もここ数年は0～1件程度に落ち着いている。引き続き、生徒の寄り沿う指導を丁寧にしていきたい。また、「不登校の克服」のため、教室へ入室するためのステップ段階としての教室（ステップアップルーム）の運用を引き続き進めていきたい。

さらに、渡日生徒の編入が毎年数名おり、日本語がまったくできない状況での学校生活を過ごさなければならない状況がある。日本語指導教育センターや通訳者との連携をさらに深め、校内の取組として渡日生徒を中心とした外国にルーツのある生徒を対象とした「国際クラブ」を新設し、居場所づくりを進めていきたい。

[現状]「全国学力・学習状況調査」結果より

- ・国語：R7→39（全国平均：52）
- ・数学：R7→22（全国平均：47）
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する割合は、R7→82.6%（全国平均：86.2%）
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する割合は、R7→69.4%（全国平均：67.5%）

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果より

- ・体力合計点 男子：R7→41.7（全国平均：42.2）
女子：R7→47.9（全国平均：47.6）

令和7年度末校内調査結果より

- ・不登校生徒の在籍比率
R7→16人（在籍比率：10.74%）
- ・暴力行為（対教師・生徒間）認知件数
R7→0件

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

◆基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和 11 年度の年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7：87%】

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。
【R7：16人（在籍比率 10.74%）】

◆基本的な方向2 豊かな心の育成

○令和 11 年度の年度目標アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7：87%】

【未来を切り拓く学力・体力の増加】

◆基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和 11 年度の中学生チャレンジテストにおける、国語と数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、毎年、いずれの学年も前年度より向上させる。

○令和 11 年度の大阪市英語力調査の CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 61%以上にする。【R7：35.5%】

◆基本的な方向5 健やかな体の育成

○令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、毎年、男女とも前年度より向上させる。【R7：男子 0.99、女子 1.01】

○令和 11 年度の年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上にする。
【R7：65.2%】

【学びを支える教育環境の充実】

◆基本的な方向6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○平成 11 年度の年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 日以上と回答する生徒の割合を 80%以上にする。
【R7：アンケートなし】

◆基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○令和 11 年度に教員の平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。【R7：31 時間 59 分】

◆基本的な方向8 生涯学習の支援

○令和 11 年度の年度目標アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上にする。【R7：65.2%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- ①年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7：87%】
- ②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を、前年度より減少させる。
【R7：16人（在籍比率10.74%）】
- ③年度目標アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7：87%】

【未来を切り拓く学力・体力の増加】

- ①中学生チャレンジテストにおける、国語と数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ②大阪市英語力調査のCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を36%以上にする。【R7：35.5%】
- ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、男女ともに前年度より0.01ポイント向上させる。【R7：男子0.99、女子1.01】
- ④年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、66%以上にする。【R7：65.2%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ①年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3日以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。【R7：アンケートなし】
- ② 教員の平均時間外勤務時間を月30時間以下とする。【R7：31時間59分】
- ③年度目標アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、66%以上にする。【R7：65.2%】

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立梅南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>①年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7: 87%】</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を、前年度より減少させる。【R7: 16人 (在籍比率 10.74%)】</p> <p>③年度目標アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、88%以上にする。【R7: 87%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生徒が安心して登校できるよう、保護者・地域・校区小学校・その他関係諸機関等の連携を図り、生徒に寄り添ったきめ細やかな対応を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(生指) 保護者への電話連絡や面談等を必要に応じて迅速に実施(原則当日～翌日)し、気になる生徒については情報共有及び関係機関との連携を月に1回以上実施する。</p> <p>(教務)・5月上旬の「授業参観」実施の情報を配布プリントやミマモルメを活用して保護者へ周知し、実際に参観していただき、授業の様子を把握してもらう。また、「文化祭」や「体育大会」などの学校行事についても保護者通知を徹底し、家庭と身近に感じられる学校現場の構築に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の取り組みとして、校区小学校の「まっば小学校」と連携を取りつつ、小中一貫行事の充実を図り、小学6年生が本校へ入学した際の「中1ギャップ」の軽減を目指す。 ・年度目標アンケート(保護者)における「学校は、情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。【R7: 88%】 <p>(人権) 教職員と生徒、生徒相互の豊かな人間関係作りに努める。月に1回以上地域の小学校・中学校・高等学校・関係諸機関等との連携、ならびに校内での情報共有を行う。</p>	

<p>(学年) 関係諸機関との連携を深め、保護者と学校とが協力して生徒の登校を支えていく。[2年]</p> <p>(特別支援教育) 自立活動を充実させ、生徒の「自分でできた」という成功体験を積み重ねることで自信や自己肯定感を高める。その結果、「自分にいいところがあると思う」という項目の肯定的な意見を82%以上にする。また、全校生徒を対象に特別支援学級通信を毎月発行し、特別支援学級の学習を知らせる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校生徒の状況を的確に把握し、SC・SSW等と連携し、個々の生徒に応じた適切な支援を行い、未然防止・早期対応・早期解決に努める。</p> <p>指標</p> <p>(生指) 欠席時点で迅速丁寧な初期対応(電話連絡・面談)を行う。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めた校内情報共有を月に1回以上実施する。</p> <p>(人権) 生徒一人一人の違いを大切にする集団づくりに努めることができるよう、週1回以上、各学年と情報共有を行う。</p> <p>(学年) 個々の課題の把握に努め、SC・SSWとの連携ができるように努める。[2年]</p> <p>(特別支援教育) 個々の生徒に応じた自立活動の充実を目指し、登校しやすい環境を作る。保護者や諸機関と連携し、個々の障がいに応じた柔軟な指導方法を考え、早期対応を行う。その結果、特別支援学級在籍の不登校生徒を生まないようにする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「エビデンスベースに基づく行動支援」を推進し、さまざまな課題を抱えた生徒への関わり方を学ぶため、教職員対象の研修を実施する。また、さまざまな外部講師と連携を図り、講話および授業を実施し、互いを認め合い支えあう学年・学級集団の育成を図る。</p> <p>指標</p> <p>(生指) 教職員対象の研修を年間3回以上実施する。その内、総合教育センターと連携した外部講師(庭山先生)の研修を2回実施する。また、生徒の実態把握のために被害調査やいじめアンケート等を年2回以上実施する。</p> <p>(教務)・2学期に実施予定の「校内研究授業」等の取り組みを経て、他の先生方が実施している授業を参観しつつ、その授業内での生徒の様子把握に努める。研究授業の参観等で把握したことも参考にしながら、習熟度別少人数授業やチームティーチング、グループ別の授業に活かす。</p> <p>・年度目標アンケート(生徒)における「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。【R7:87%】</p> <p>(人権) 新転任の教職員を中心に地域研修に参加するよう促す。また、各学年、年1回以上の同和学習や多文化共生教育を生徒向けに実施し、様々な人権問題を学習する機会を確保する。</p>	

<p>(進路) 全学年で外部講師を招き、講話・講演を行う。また、体験入学・高校情報などを提示し、生徒が自ら進路選択ができる環境を整える。</p> <p>(学年)・一泊移住、キャリア教育などを行う。[1年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習、職業講話、校外学習などを行う。[2年] ・修学旅行や進路講話、キャリア教育などを行う。[3年] <p>(特別支援教育) 様々な外部機関や学年の特別支援担当が連携し、各学年のそれぞれの課題や内容にあった講話や体験を通して互いのちがいを知る機会を年に1回以上設ける。教職員に関しても職員会議等で情報共有を行い、適宜研修を行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度（今後）への改善点</p>	

大阪市立梅南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の増加】</p> <p>①中学生チャレンジテストにおける、国語と数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>②大阪市英語力調査のCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を36%以上にする。【R7:35.5%】</p> <p>③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、男女とも前年度より0.01ポイント向上させる。【R7:男子0.99、女子1.01】</p> <p>④年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、66%以上にする。【R7:65.2%】</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、定期テストに向けての取組を実施する。また、学力向上に向け教科研究授業を充実させ授業改善に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>(学力向上)・各定期テスト前の「放課後学習会」や夏休みの学習取り組みである「サマーメモリー」を計画的に実施し、学力の向上を図る。また、テスト勉強の計画を確実に作成させようとして、家庭学習を行わせるために、保護者への協力を促していく。</p> <p>・年度目標アンケート(生徒)における「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、「全くしない」に回答する生徒の3学年の平均の割合を15%以下にする。【R7:19%】</p> <p>(ICT)学習者用端末を持ち帰らせることで、自宅での自主学習を促す。学習教材として課題を配信する。</p> <p>(学年)・提出物・小テスト合格など日々徹底させるところから取り組む。[2年]</p> <p>・放課後や、長期休業中に補充学習を行う。[3年]</p>	

<p>取組内容③④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>保健体育の授業において仲間とコミュニケーションをとる時間を確保し、運動に親しむ態度を育成する。また、授業での運動量、時間を確保する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(保健体育) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を男女とも昨年度より向上させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度(今後)への改善点</p>	

大阪市立梅南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>①年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3日以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。 【R7: アンケートなし】</p> <p>②教員の平均時間外勤務時間を月30時間以下とする。【R7: 31時間59分】</p> <p>③年度目標アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、66%以上にする。【R7: 65.2%】</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション)】</p> <p>授業内での学習者用端末の活用を促進し、ICT機器を扱う技術力と効果的な学習方法を獲得させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(学力向上) 2学期に実施予定の「校内研究授業」等の取り組みにおいて、学習者用端末の活用を促す。</p> <p>(ICT) 心の天気や1日日記の実施、長期休暇中の宿題配信などで学習者用端末を活用する。</p> <p>調べ学習や写真・動画撮影などを行うことで、生徒自身が必要なデータを取捨選択し、メディアリテラシーや情報モラルを身に付けさせる。</p> <p>(学年)・「デジタルコンテンツを月に一度以上使用できる環境にある」の項目を90%以上にする。【R7: 90%】 [1年]</p> <p>・授業・学年取り組みで課題、調べ学習、発表でのICT活用を推進する。 [2年]</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ゆとり日の設定や学校組織の見直し、仕事を精選し、時間外勤務に対する教職員の意識を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(教頭) 職員会議の日を「ゆとりの日」と定め教職員に発信し、時間外勤務時間を減少させる。また、ICT環境を整備し業務の効率化を図る。</p>	

取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】

学校の施設を開放し、読書ができる環境を整備する。また、学校元気アップ地域本部事業の地域コーディネーターと学校司書を中心に、昼休みの図書室開放、中学生に勧めたい図書の紹介等を実施する。

指標

(学校元気アップ) 毎月図書だよりを発行する。また、学期末懇談中に移動図書館を開催する。

(図書担当) 文化委員および学校元気アップ・学校司書と連携し、昼休みの図書室開放を週3回以上実施し、図書室の利用を促しつつ読書習慣の定着化を図る。

(学年) 総読、朝読で読書の機会を増やす。[2年]

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度(今後)への改善点

(別紙)

大阪市立梅南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（教科別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【国語】 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 各学年の生徒に応じたチャレンジテスト対策プリントを各学年で作成し、適切な時期に取り組み得点力の向上を図る。	
指標（チャレンジテストに関する項目）	
1年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。	
2年生：1年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	
3年生：2年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成状況
【社会】 思考力・判断力を鍛えるための、定期テストの論述問題の正答率を上げる。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 定期テストに論述問題を複数出題する。正答率を上げるために授業内で練習問題や小テストを行う。	
指標	
1年生：定期テストの論述問題正答率を65%以上とする。	
2,3年生：各学年とも前年のチャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成状況
【数学】 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均正答率の対府比を、いずれの学年も前年度より向上させる。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 各学年の状況に応じて、チャレンジテストの過去問や対策プリントに取り組む機会を設ける。	
指標	
1年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。	
2年生：1年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	
3年生：2年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成状況
【理科】 興味・関心や意欲を引き出すような授業を意識し、科学を身近な生活と関連付けさせて、科学的な見方や考え方を養う。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 生徒実験をできるだけ実施し、授業では写真や映像を多く取り入れて、興味・関心を高める授業を心がけ、基礎的な知識の定着を図る。	
指標	
1年生：授業アンケートの「授業がわかる」「授業が好き」の項目で、肯定的な回答の割合が、85%を上回る。	
2,3年生：授業アンケートの「授業がわかる」「授業が好き」の項目で、肯定的な回答の割合が前年度を上回る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成 状況
【音楽】 歌唱、器楽、創作の各分野において、基礎的な技法を習得させ、音楽の構成要素を理解して表現に活かすことができるように取り組む。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 歌唱、器楽、創作の各分野において、基礎的な技法を習得させ、音楽の構成要素を理解して表現に活かすことができるように取り組む。	
指標 校内アンケートにおいて、音楽の授業が「わかる」「楽しい」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成 状況
【美術】 体験的な表現活動を通して、生徒一人ひとりが想像する喜びを実感し、美術に対する興味・関心・意欲を高めるとともに、基礎的な知識及び技能を身に付け、それらを実践的に活用できる力を育成する。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 身近な題材や ICT を活用し、生徒が主体的に取り組める体験的な表現活動を設定する。また、描写や色彩、材料の扱いなどの基礎的な技能を段階的に指導し、それらを表現に生かせるようにする。 さらに、作品制作の過程を重視し、試行錯誤や工夫を価値づける評価を行うとともに、鑑賞活動を取り入れることで、自他の作品の良さや多様な表現に気付かせる。加えて、生徒の実態に応じた課題設定や声掛けを行い、一人ひとりが達成感を味わえる授業づくりを推進する。	
指標 1年生：授業アンケートの「授業が楽しい」「授業が好き」の項目で、肯定的な回答の割合が、85%を上回る。 2,3年生：授業アンケートの「授業が楽しい」「授業が好き」の項目で、肯定的な回答の割合が前年度を上回る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成状況
【保健体育】 体力の向上および生涯にわたる豊かなスポーツライフを支える資質・能力を高める。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 保健体育の授業において仲間とコミュニケーションをとる時間を確保し、各単元の技術向上、健康への正しい理解と知識・運動に親しむ態度を育成する。	
指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を男女とも昨年度より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成状況
【技術家庭】 生活の課題解決やより良い生活の実現に向けた技能・知識の向上を図る。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況	
取組内容 生活の課題解決に向けた技能・知識が習得できるように、技術科・家庭科それぞれ各学年、年間で10時間以上実習の授業を行う。	
指標 2,3年生は、校内アンケートにおいて技術・家庭科の授業がともに「わかる」「楽しい」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回るようにする。 1年生は校内アンケートにおいて技術・家庭科の授業がともに「わかる」「楽しい」の項目で、肯定的な回答割合が、2・3年生の平均値を上回るようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度（今後）への改善点	

年度目標	達成 状況
<p>【英語】 生きた英語を活用し、4技能（Speaking, Writing, Listening, Reading）の向上を目指す。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標達成状況</p>	
<p>取組内容 C-NET を活用した授業を各学年で年間 12 回以上実施し、ネイティブスピーカーとコミュニケーションを図る機会を増やす。また、基礎基本を定着させるために年間 10 回以上の小テストを実施し、スモールステップでの学力向上を目指す。</p>	
<p>指標</p> <p>1 年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。</p> <p>2 年生：1 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p> <p>3 年生：2 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度（今後）への改善点</p>	